



洞田貫さんによる講演

12月10日土曜日、本校大会議室において59名の参加者を迎え、理系ゴコロ講演会「女性技術者・研究者のステキな生き方」&科学教室「クリスマスアロマキャンドルを作ろう」を開催しました。

このイベントは、本校を含む8高専による「全国高専女子学生の連携による高専女子ブランドの発信」事業の活動の一つです。

当日前半は、現在企業で活躍中の本校OG3名にお話し頂きました。

吉村(旧姓:川井)利恵子さん(1983年化学工学科卒)は、働

き続けるには「人とのつながり」「まわりへの感謝」が重要であると話されました。

また、寶代墨さん(1995年情報工学科卒)は、「視野を広げ選択肢を広げる事」「新しいことにチャレンジする事」が大事だと中学生、高専生にメッセージを送っていただきました。

最後に、洞田貫紀子さん(2002年機械工学科卒)は、経験値が重要な現職場では高専卒が非常に有利だ、と熱く話してくださいました。

年代も専門分野も違う3人でしたが、優秀さとしなやかな力強さは講演から共通して感じ取る事ができ、これこそ「高専女子ブランド」だと感じました。

後半は、アロマキャンドル作りを体験しました。この教室は、本校専攻科1年の講義「システムデザイン演習」での学生提案企画の一つで、当日は企画した専攻科1年の女子学生が講師を担当しました。参加者は、実験形式での炎色反応を利用した様々な色の炎を持つMyキャンドル作りを楽しみ、「とても楽しかったです」との感想が多く寄せられました。

講演会&科学教室終了後、講演者のOGと女子学生スタッフとの懇談会を持ちました。奈良高専生共通の話題で大変盛り上がり、会話が全く途切れませんでした。女子学生達にとって、ロールモデルともなるOGと本音で話ができこのような場は、自分たちの力を認識し将来を具体化するいい機会となりました。今後も、このような機会を学生たちに提供していきたいと考えています。

## 特別講演会

情報工学科

物質化学工学科

情報工学科 浅井 文男

物質化学工学科 三木 功次郎



講師：傳田アソシエイツ株式会社

代表取締役社長 傳田信行氏

演題：インテルの成長過程 ～何が日本の会社と違うのか、何故、短期間で世界一に登り詰めたのか～

日時：10月6日(木) 13時～14時30分

場所：図書館2階 大視聴覚室

インテル株式会社代表取締役社長およびインテル米国本社副社長として活躍され、現在はベンチャー企業の育成と投資に尽力されている傳田信行氏を講師にお迎えして上記のとおり特別講演会を開催し、情報工学科4・5年生や専攻科電子情報工学専攻学生を中心に学外からの参加者も含め、106人の聴衆が参加しました。

世界に目を向けて高い目標と強い意志をもち、挫折を恐れずにチャレンジ精神に磨きをかけることの大切さをご自身の体験に基づいて熱心に語られた傳田氏に対して、革新的なITソリューションの創出やITベンチャーの起業を夢見る学生諸君からはアドバイスを求める質問などが相次ぎ、熱気に満ちた有意義な講演会となりました。



「想定外」という表現は技術者としては無能であり挫折である

—福島第一原子力発電所事故を巡る技術者の「危機意識」と「人間力」—

平成23年11月24日(木)、物質化学工学科では元原子炉格納容器設計技師で沼津高専特任教授の渡辺敦雄先生をお招きして、4C・5C対象の特別講演会を実施した。他学科の本科生・専攻科生16名、教職員20名を含めて計106名の参加者があった。

講演では、原子力発電の原理、事故の状況、放射線の影響、新エネルギーの必要性などについての説明があった後、「人間として、技術者としてどうあるべきか」の話となった。学ぶということは、事実を把握して真実を見抜く力を得ることであり、「正しく恐れ、正しく行動せよ!」や「想定外という表現は技術者としては無能であり、挫折である\*」などのメッセージを熱く語られた。そして、若い技術者には、廃炉や新エネルギー開発に必要な新たなテクノロジーを生み出すことが求められており、大きな活躍の場があることを示された。

渡辺先生は、過去に福島第一・浜岡原子力発電所などの基本設計を担当されていたので、今回の事故は技術者として大きな転機になったと思います。その中で講演していただいた話が、技術者への道を歩む学生の心に刻まれ、一つの指針となることを切に願っています。

\*渡辺敦雄、水素爆発をもたらしたものは何か、岩波書店「科学」、2011年12月号、1239-1245